

## (西暦) 2014 年度 博士前期課程学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が英語の場合は和訳をつけること)

通所リハビリテーションにおける OSAII を用いた作業療法プログラムの効果

学位の種類: 修士 (作業療法学)

首都大学東京大学院

人間健康科学研究科 博士前期課程 人間健康科学専攻 作業療法科学域

学修番号 13896601

氏名: 石代 敏拓

(指導教員名: 小林 法一 教授 )

注: 1 ページあたり 1,000 字程度 (英語の場合 300 ワード程度) で、本様式 1~2 ページ (A4 版) 程度とする。

**【はじめに】** 通所リハビリテーション (通所リハ) 利用者に「作業に関する自己評価・改訂第 2 版 (OSAII)」を活用し、作業参加に焦点を当てたプログラムが健康関連 QOL に与える効果を対照群との比較により検討した。OSAII は、作業療法 (OT) において一般に使用される支援ツールであり、対象者が望む日々の作業への参加 (作業参加) を目指した目標設定や、プログラム内容の決定に用いられる。本研究の意義は、臨床での OSAII の活用が、健康関連 QOL に寄与するプログラム開発に資するかを実証的に示すことである。

**【方法】** 対象となった A 病院の通所リハ利用者 34 名を、実験群 17 名、対照群 17 名に無作為に割り付けた。実験群には作業参加に焦点を当てたプログラムとして OSAII に基づく個別 OT を実施し、対照群には通常の個別 OT を 3 ヶ月間実施した。アウトカム指標には、MOS 36-Item Short-Form Health Survey version 2 (SF-36v2) などを用いた。また、実験群に対しては、支援目標とした作業の遂行度を測定した。

**【結果】** SF-36v2 の前後比較では、介入の違いによる有意差は認められず、OSAII を用いたプログラムの有用性を支持する結果は示されなかった。次に実験群を、介入前後における遂行度の変化別に遂行度上昇群 (上昇群)、非上昇群の 2 群に分けて比較した。その結果、上昇群では SF-36v2 の全体的健康観 (GH) の有意な向上が認められた。非上昇群では、SF-36v2 の GH と社会生活機能 (SF) に有意な低下が認められた。また、プログラム前後の測定値の利得の比較では、上昇群において、身体に関する日常役割機能、GH、SF が有意に高かった。

**【考察】** 実験群と対照群の比較では、両群の健康関連 QOL の変化に有意な差がない結果となった。しかし、実験群の介入前後における遂行度の変化すなわち作業参加状況に着目したところ、3 ヶ月の介入により作業参加が改善した群 (上昇群) では健康関連 QOL が有意に高まり、逆に作業参加に結びついていない群においては有意に低下するという結果が得られた。本研究より、単に OSAII を活用して作業参加に焦点を当てたプログラムをおこなうだけでは健康関連 QOL の向上にはつながらず、作業参加に結びついているかどうか健康関連 QOL に影響している可能性が示唆された。

本研究は、一施設で実施されたものであり、対象者の人数も十分とは言えず、一般化は難しい。しかし、対象者の群分けは無作為化しており、単に OSAII を実施するだけでは効果がなく、作業参加に結びつかなければ効果的ではないという結果は、ある程度支持できると考える。